



今日から実践！ 災害準備



1 名札をつけよう ～名札は飼い主さんの愛情です～



災害時はペットと離ればなれになってしまいます。ペットは言葉が話せず、どこかに保護されていても飼い主のもとに帰れないこともあります。一般的な名札だけでなく、鑑札や狂犬病予防注射済票、マイクロチップなども名札となります。

※鑑札や狂犬病予防注射済票は法律により、装着が義務付けられています。



マイクロチップ (12mm×2mm)

注射針で皮膚の下に埋め込みます。体から外れることがないため、安心ですね。



2 病気の予防をしておこう ～他の動物からうつされない、うつさない～

- ・狂犬病ワクチン、混合ワクチン接種
- ・フィラリア感染予防
- ・ノミ、ダニなどの駆除
- ・腸内寄生虫の駆除
- ・避妊・去勢手術



※東日本大震災では、特にノミ・ダニ・フィラリアが問題となっていたようです。

また、避妊・去勢手術をしていない犬や猫が震災により野良化し、繁殖してしまったという問題も起きています。



3 最低限のしつけをしよう

避難生活を送ることになった場合、動物が嫌いな住民への配慮が必要です。また、一時預かりをしてもらう場合も、しつけがされている犬は預かってもらいやすいでしょう。

災害時には、特に『ケージに慣れさせる』しつけが重要になってきます。ケージへの慣れさせ方は、裏をご覧ください。



4 非常持ち出し品を準備しよう

最低 5 日分のごはん・水



(水は軟水が良い。)

首輪やリード



ケージ



その他、ビニール袋、ペットシート、ブラシ、救急セット、食器、バスタオル、新聞紙、猫では猫用トイレなども用意しておくとういでしょう。

また、ペットの写真を用意しておく、行方不明時の搜索の際、役立ちます。

災害対策について、詳しく知りたい方は、この冊子を見てみましょう！



岡崎市動物総合センター

Tel: 27-0444 岡崎市欠町大山田 1 番地

災害時のために

日常のしつけとして

ケージに慣れさせよう！



災害時では、避難する際、避難場所、一時預かり場所では、動物をケージに入れることが必要となってきます。日頃から、ケージに慣れさせて、災害時に役立てましょう。

ケージに入れることはかわいそうと思われがちですが、家の中では、安心して休める場所になったり、車での移動でも安心、病院など色々な場所に連れて行きやすい、入院時・ペットホテル等で預けられている際の動物のストレス緩和など、いいことがいっぱいです！！



ケージとは、動物が入る、持ち運び可能なケースのことです。犬の場合は、立って方向が変えられる程度の大きさのものを用意し、大きすぎるものは避けましょう。小型犬や猫はキャリーバッグをケージとして使ってもいいですね。



ケージへの慣らし方

猫の場合は、中で毎日のごはんを食べさせることをメインに慣らしましょう。



1 ケージ内の手前におやつやごはんをばらまきます。



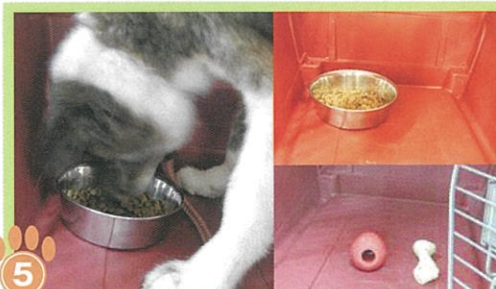
2 犬が自分から食べられたら…



3 ケージ内のおやつやごはんを奥の方においていきましょう。初めから、全体にばらまいてもいいですね。

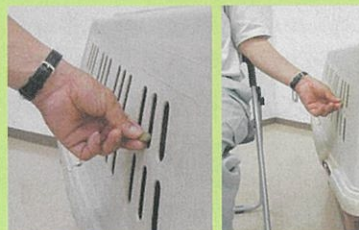


4 体が全部入ってこちらを向いたら、ごほうびをあげてほめてあげましょう。



5 中に入ることに慣れたら、中でごはんを食べさせたり、ガムやかじれるおもちゃを入れ、食べている間は扉をしめましょう。扉を閉める練習は数秒から始めましょう。

ケージに入り、扉を閉められる状態になったら、すきまからおやつを入れて、さらにケージに慣らしましょう。室内犬の場合は、テレビを見ながらでもできますね。



無理矢理とじこめるのは、ダメ！
ケージに入らなくなってしまう。気長に行いましょう。